NPO法人 龍ケ崎ゲヴァントハウス特別企画

講演とコンサート

“焼かつおスピーカー”で聴く
大ピアニスト～クラウディオ・アラウの芸術～

今回のCDコンサートは、秋の特別企画として、音楽・オーディオ界の第一人者、元フィリップス・レコード・オランダ本社副社長、新　忠篤氏をお招きし、「“焼かつおスピーカー”で聴く ー大ピアニスト　クラウディオ・アラウの芸術ー」と題して、講演とコンサートを行います。

新氏は月刊「ラジオ技術」及び、季刊「管球王国」等に執筆され、オーディオ界では特にその名を知られた存在です。今回は氏が制作された、安価で高音質な手作りスピーカー、通称「焼かつおスピーカー」を使用し、巨匠クラウディオ・アラウの芸術を堪能します。

【焼かつおスピーカーについて】　　新　忠篤

5年前（2018年）の秋のことだった。私の住んでいる地域の市報に、「純セレブスピーカーを作ろう」という告知を見つけた。市が管理するリサイクルセンターに持ち込まれた廃棄オーディオセットから、スピーカー・ユニットを取り外し再利用する講習会で、参加者にはスピーカー・ユニットを無償で提供するか、自分の持っているユニットを持ち込んでもかまわないとあった。それを段ボールの空き箱に組み込んでスピーカー・システムにする。私はすぐに受講の申し込みをした。当日、手持ちのマークオーディオ製のユニットと飼い猫のエサ「焼かつお」（イナバ食品）の空き箱をさげて会場に向かった。「純セレブスピーカー」の製作指導は音楽家の片岡祐介氏だった。私以外は会場で配られたユニットを段ボール箱に取り付けていた。全員が作業を終えた後、参加者の作品を順番に先生が鳴らしていった。私のスピーカーを鳴らしたあとで、片岡先生は、「焼かつおスピーカー」と命名すると言った。先生もその音を気に入られたようだった。その後私は、マークオーディオの製品の中からいろいろのユニットを選び、この箱に取り付けて鳴らしていった。今日のシステムはMarkAudio CHP90micaで13cm口径のユニット。コーン紙は和紙とMica（雲母）の混ぜ合わせたもので、その音の佇まいが大変好ましく気に入っている。「焼かつお」箱も1段から5段までいろいろ試してみたが、段数の多いほうが豊かな音がするようだ。また、このスピーカーを駆動するアンプは100W＋100Wの超小型Ｄ級アンプを使用している。

日　時：2023年11月11日（土）　午後2時～午後4時30分（休憩10分）

場　所：**龍ケ崎市　市民活動センター ２階パソコン室**

講　師：新　忠篤氏（オーディオ研究家、元フィリップスレコード・オランダ本社副社長）

テーマ：**“焼かつおスピーカー”で聴く 大ピアニスト～クラウディオ・アラウの芸術～**

〈新　忠篤氏プロフィール〉

1939年、東京生まれ。元フィリップスレコード・オランダ本社副社長。フィリップス・クラシック社時代に小澤征爾、内田光子ら日本人アーティストの世界市場での販売、展開を手掛ける。コロムビア時代のDXMシリーズの復刻、飛鳥新社出版の、モーツァルト“伝説の録音”の編集・復刻を担当。2015年宮内庁が戦後70年にあたり、昭和天皇が国民に終戦を伝えた玉音放送の原盤の再生を氏に依頼、テレビでも紹介された。現在はフリーランスでSPレコードからの復刻CD企画、オーディオ用真空管アンプの設計、製作を続ける傍ら、「新忠篤オーディオ塾」を主幹、雑誌「管球王国」、「ラジオ技術」等に執筆。

プログラム

モーツァルト: ピアノ・ソナタ第15番ハ長調 K.545 (15:12)
クラウディオ・アラウ（ピアノ）
1985年 9月、スイス、ラ・ショー・ド・フォン録音　　PHILIPS UCCP-935

ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ第 5番ヘ長調作品24「春」(22:54)
アルテユール・グリュミオー（ヴァイオリン）／クラウディオ・アラウ（ピアノ）
1975年 3月アムステルダム・コンセルトヘボウ録音　　DECCA UCCD-9854 (PHILIPS録音)

休憩10分

ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第 5番変ホ長調作品73「皇帝」(40:33)
クラウディオ・アラウ（ピアノ）／サー・コリン・デイヴィス指揮ドレスデン・シュターツカペレ
1984年11月ドレスデン聖ルカ教会録音　　PHILIPS PHCP-1689

ショパン: アンダンテ・スピアナートと華麗な大ポロネーズ (15:20)
クラウディオ・アラウ（ピアノ）／エリアフ・インバル指揮ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団
1972年 6月ロンドン録音　　DECCA UCCD-4863 (PHILIPS録音)

★ホームページアドレス　https://gewandhaus.sakura.ne.jp/wp/